

「成功」でなく「成長」

～3学期の終わりに～

2023・3・18 校長 重枝一郎

みなさんも知っての通り(?) 私は数学科の教員です。サッカーの先生ではありません。ただ、サッカーの指導を通して教育について学ばせてもらったことが経験資産になっています。それは、選手の「成功」というより「成長」できる学びの環境づくりにおいてです。今でこそ当たり前のように知られていますが、教育界でコーチングという言葉を目にした頃から「ティーチングでなくコーチング」を意識するようになったのもサッカーの指導経験のおかげでした。動きを止めてしっかり話を聞かせる「フリーズコーチング」、動いている状態で声かけをしていく「シンクロコーチング」は、教科指導でも学級指導でも活用できました。

私は、サッカー部の生徒の「成長」を考えたとき、個々の1日をデザインする力をつけていくことを意識させていました。部活動の時間は60名くらいの部員がいた学校の場合は約2時間、部員数が少ない学校の場合は約1時間、朝練は一度もしたことはありません。限られた時間で、個人として、チームとして何をすべきか「考える」ことを習慣化し、主体性を育むことを目標にしていました。この目標が、「成功」より「成長」ということにつながっていくと考えていました。

練習や試合をする際、その時間の目標をみんなで共有することが一番大切であり、教育効果を上げると考えていました。このことは教科の授業でもつながります。1コマの授業における目標は「めあて」とよく言われます。その時間の「めあて(=ゴール)」を共有し、「50分後になりたい自分」をマインドセットすることが授業の効果を生み出します。

生徒は、1日をデザインすることで、食事、休養のための時間や自学したり、家族と過ごしたりする時間を意識するようになります。すると生徒は、普段の生活の中でも、自分の考え、自分の夢をもち、そのための時間の使い方を考え、夢中になって努力するようになります。そして、最後まであきらめない「心」の才能を磨いていきます。まさにそれがキャリア教育だと考えました。

1日をデザインする力を育むためにポイントとなるのは、「こんな24時間にしたい」「こんな生き方をしたい」というイメージになります。そこから夢中になる力が生まれ、イメージの実現につながっていきます。また、一番近くにいる大人が最初の教育者になる。そういう意味では教育のスタートは家庭になります。そこから学校・地域社会に流れてきます。関わる人間がどんどん重なり合うことが、キャリア教育と言えるのです。

サッカー・授業等の指導をする中で、選手・生徒の「できない」を「できる」にするためのサポートは、選手・生徒の自信を育てます。もし、なかなかできるようにならなくても、みなさんは我慢と情熱は失わないでほしいと思います。それが必ずみなさんの成長につながるからです。

さあ、みなさんは次の学年に進みます。

人は「安全・安心・安定」の3Aと言われる所に集まります。自分たちのクラスや部活では、不安がない人間関係づくりをしてほしいと思います。もし、人間関係づくりにおいても、勉強においても、もうまくいかないことがあっても、「もうダメだ」ではなく「まだダメだ」と考えることを習慣化して、我慢と情熱をもって学び続けてほしいと思います。成長するために……。